

いのち  
生命の水 うるおす未来

# アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2021年春

145



特集

新型コロナ禍の中で④

フィリピンの  
台風被害他



● 主な目次 ●

「巻頭言」コロナで貧しさ増す国へ支援を 02  
 特集＝新型コロナ禍の中で④ 04～13  
 台風ユリシーズがフィリピンにツメ跡／捨てられた盲目の母／工場勤めで濃厚接触／バリ島の大学は観光も支援／修行僧にならされるA君／市中感染者ゼロ、マスクなし／規制下でも次々と新事業 他  
 ネパールの村、リーダーたちにやる気 14  
 サイクル・エイド新ステージへ 15  
 カンボジアでの「贈水」活動継続へ 16  
 コロナ下でできること、若者が討論 16  
 「活躍するアジア人」 17  
 「井戸ができた村」 18～21  
 「JAFSプラザ」＝国内の活動 22・23  
 アジアの暮らしと文化 ちびっこ画伯が伝える／NPOフェスでJAFSの活動紹介／コロナ下でも…初のオンライン市民大学／明日の地球論じよう  
 新入会員紹介・領収報告 24・25  
 「新・the 社会貢献」 26  
 「環境コラム」 27

## アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2020年3月現在、井戸建設（累計2113基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

### 本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

## 巻頭言

この一年、新型コロナウイルスに振り回されて、世界中に混乱が広がっています。コロナの影響は、きわめて広範囲に及びます。保健衛生ばかりでなく、政治、経済、個人生活面等あらゆる面に影響があり、かつ日本ばかりか全世界に感染が広がっています。パンデミックといわれるゆえんです。主な影響がいかほど深刻か見てみたいと思います。国の借金が増えず、孫世代につけを回しているようなものです。

### コロナで貧しさ増す国へ支援を



櫻井 紘哉  
アジア協会アジア友の会 副会長

か」（大橋正明聖心女子大教授）の中で、「コロナは人口の40%を貧困にする」とのバングラデシュの新聞記事が紹介されました。またコロナ感染者は、特にインド、マレーシア、インドネシア、フィリピンで多いので、貧困問題がこれからの大きくクローズアップされます。JAFSとして、この問題により真剣に取り組む必要があります。

JAFS村上事務局長がよく言われる「握り飯より柿の種」に注目したいと思います。そのため教育やシステム（仕組み）が必要です。よい参考事例は、海水混じりで衛生的ではない水が原因の病気で、多くの村人たちが命を落としていた窮状を救うために、1992年からJAFS最大のプロジェクトとして、8年余りをかけて10kmに及ぶパイプラインを完成させた「パンダン水道プロジェクト」です。パンダン水道局の管理下で多くの人々を雇い、かつ2万世帯に水が供給され、収入に

### プロフィール

さくらい こうや 1940年茨城県生まれ。65年東京大学卒業、㈱三和銀行入行。モントリオール銀行トレーニーを経て、三和銀行支店長、管財部長。退職後、ヤマトインタナショナルおよびOSGコーポレーション役員、芦屋学園理事などを歴任し、2020年6月よりJAFS副会長。

**JAFS 会員綱領**

私たちは、世界の平和と人間の基本的な人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
- 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
- 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
- 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上



台風で破壊された家=11月21日、リサール州ピナンゴナン町



水が引かないため、船で物を運ぶ人々=11月15日、リサール州カルドナ町



# 台風ユリシーズ フィリピンにツツメ跡

特集 新型コロナ禍の中で④

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るうさなかの2020年11月、フィリピン北部を台風ユリシーズが襲い、大きな被害をもたらしました。ツツメ跡は深く、3カ月あまりが過ぎても、感染を避けながら懸命の復旧・復興作業が続いています。現地から届いた報告です。

## 感染避けながら 手さぐりの復興

●フィリピン 2月19日

デニス・Y・バトイIIアジア社会科学院 (ASI) 副学長

台風ユリシーズ (国際名Yamco)

が2020年11月11日から12日にかけてフィリピンを横断、特に北部の多くの州に壊滅的被害をもたらしました。

### 北部各州に大きな打撃

北部のカガヤン、イザベラ、ヌエバビスカヤ、キリノの各州では合わせて約15万1600世帯の人々が家屋の倒壊などの深刻な被害を受けました。地滑り、溺死などで24人が死亡し、多くの人々が負傷しました。3月で発生か

川が氾濫して多くの家々が水に浸かった。2020年11月21日、リサール州アンゴノ町

ら3カ月が経ちましたが、まだ約2200世帯の人々が避難所で生活しています。台風の影響で、農業と社会基盤合計約129億ペソ(約2億2600万ドル)分が破壊され、67人が死亡しました。2020年にフィリピンを襲った最悪の台風と宣言されました。国全体で人々の生活や財産に大きく影響を与えたためです。

フィリピンには毎年、多くの台風がやってきますが、今回は特に世界的に問題になっている新型コロナウイルスの感染拡大と重なり、復興への手掛かりがつかめず、困難な状況に陥っています。

リサール州は、大きな被害を受けた場所の一つです。2万5千を超える家族が州内の137の避難所で避難生活を送り、5人が死亡しました。カルドナ市では洪水によって家屋が浸水し、人々は避難所への移動を余儀なくされました。漁業を生業とする村人のボートも壊れ、また養殖場の100を超えて壊れました。部分的または完全に破壊されました。そのため養殖魚が逃げ出し、大きな損失を受けています。人の背を超える高さの水が家に侵入したため、約300家族が安全のために避難所に避難しました。

### あつという間に水が…

台風ユリシーズは当初、普通の台風規模と認識されていたため、多くの人々は台風に備えながらもリラックス

していました。しかし、夜になると予期していなかった非常に強い雨や風が吹き、すぐに湖の水位が上がリ、湖畔に住むほとんどの家が水に浸かり、あつという間に家が水没し始めました。夜で暗かったこともあり、一部の家族は水が突然上昇したため、家電製品などの持ち物を移動できませんでした。

さらに彼らの命を脅かしたのは、襲ってくる大きな波です。彼らの小さな古い家を飲み込んでいきました。地元救助チームの助けを借りて、何百もの家族が救助され、避難しました。予想しない多くの避難者が出たので、あらゆる施設が一時的に避難所となりました。ホールや裁判所、小学校も開放されました。

漁師や生活の利便さから湖岸に住んでいる家族のほとんどは、家財道具の全てを流されてしまいました。もともと丈夫ではない竹やニッパヤシ、トタンなど軽い素材でできた家々は、強風で簡単に吹き飛ばされました。アングノでは約500世帯、カルドナでは600世帯の家が破壊されました。

### 舟流され魚を捕れない

被災した人たちは次のように語ってくれました。

ヘレンさん（主婦、家政婦をして家計を助けているお母さん）「以前の台風ロリーは危険信号4の警告でスーパー台風と宣言されていたのですが、そ



ボランティアが被災者の家を一軒ずつ訪ねて被災状況を調べる=1月19日、リサール州アングノ町



コロナを恐れて避難所へ行かず自宅で生活を続ける村人に、支援物資を配り歩くボランティア=1月19日、リサール州ビナンゴナン町

んなに大きな被害が出なかったために、危険信号2の台風ユリシーズについてはあまり気にしませんでした。風、雨、波もそんなに強くありませんでした。夜半に突然、家の中で水が急に上昇していることに気づきました。私たちは家財を守るうとしましたが、ほとんど水没してしまいました。どんな水位が上がっていく中で子どもと一緒に必死で少しでも高いところに逃れました。救助隊に助けられ、家族全員そろって避難所に行けたことが救いでした」

アランさん（契約労働者・小さな子

ども3人のお父さん）「台風の風や雨が強くなり、家の中に水が流れ込んでくる中で、眠っていた子どもを起こして小さな子たちと一緒に避難するのは本当に大変でした。素早く移動しなければならぬのにうまく動けず、救助隊が来て避難所への移動を手伝ってくれるまでは生きた心地がしませんでした。夜が明けてから、子どもたちの服や貴重品を少しだけセンターに運ぶことができました」

漁師組合のメンバー「台風のために仕事ができなくなりました。天候が悪い間はもちろん漁に出ることができま

せんし、台風が去った後はがく然としました。ボートは流され、養殖場は壊滅的な被害に遭い、魚はどこにもいませんでした。私たちのような漁師は、収入を日々つかまえた魚を売ることです。魚を釣れないと食べるのができません。いつも大変なときは親戚や友人から食べ物を借りるのですが、今回は広範囲に被害が出ているので、借りることができませんでした」

### コロナを恐れつつ避難

避難所に移動した被災者は雨と風から身を守ることはできましたが、次に心配になるのは、新型コロナウイルスの存在です。家に戻れない家族にとっては、避難所にとどまる以外に生き残る選択肢はありません。

リサさん（小学校の避難所で）「避難所では、今までにない新しい状況に適応しなければなりません。最初、私たちは湖岸から離れたバラングアの小学校に連れて行かれました。1つの教室に4〜5家族が一緒に入り、各家族のスペースとプライバシーを守るために、布や毛布で作られた即席のカートンで区切られました。教室内でも寒かったのですが、通常の避難所でもなかったためにマットもなく、セメントの床で寝るしかありませんでした。あまりにも急に水が襲ってきたため、家から何も持ち出せていない家族も多

者のために予算を計上できません。

そのような状況の中、ASIIとJAFSが連携し、特に被害の大きかった838世帯に食料やコロナ対策の衛生用品を支援し、村人たちの大きな希望になりました。事前調査の中で一番必要とされた米、缶詰、砂糖、コーヒール、ミルクなど食料、そして家族をコロナから守るためのマスクとフェイスシールドを受け取って、久しぶりに気持ちを落ち着けることができました。

アランさん「JAFSからの救援物資により、家族に食料、特に3人の小さな子たちにミルクとビスケットを食べさせることができました。仕事がなく家も水に浸かったままで毎日不安ですが、しばらく家族が食べられるのは本当に幸せです。共に避難所で過ごした仲間もとても喜んでいました」

病気や高齢者の家族を支える家庭も多く、JAFSの支援により家族全員が食事できるのは大きな祝福です。

コロナ禍で出稼ぎなどの仕事が減り、地域でできる農業や漁業に力を入れていましたが、今回の台風で、それも失われてしまいました。元の生活に戻るのは多くの時間がかかると思いますが、皆様の温かいお気持ちに胸をなぐさめ、一歩ずつ進んでいきます。ご支援いただきました日本の皆様、心より御礼申し上げます。彼らの生活が少しでも早く日常に戻れるよう、引き続きご支援をお願い申し上げます。

くいました。避難に時間をかけられる場合でも、私たちの地域はその日暮らすのに精一杯で、防災グッズを準備できていない家庭がほとんどです。自治体が提供してくれた食べ物といくつかの生活用品を分け合い、なんとか数日を過ごしました。疲れきった体で慣れない環境で過ごすことはとてもつらく、涙がとまりません」

マリリンさん（子ども・孫と避難）

「私は普段は別に住む子どもたちとその家族と一緒に避難しました。私の子どもは非常に若くして結婚したばかりで、仕事もないため収入もなく、私が家族の費用を負担しなければなりません。小さな孫たちが寝具もない中で眠らなければならないことに心が痛み

ます。布の仕切りだけでは、たくさん蚊に悩まされることになり、子どもが泣いてゆっくり休めない日が続いています。限られたスペースで共に過ごし、新型コロナウイルスは恐怖でしかありませんでした」彼女は既に年をとっていましたが、避難所で新しい状態に順応しなければなりません。子どもと彼女の家族と一緒に、子どもや孫たちの世話をするために本当に一生懸命に努力しました。

エリザベスさん（裁判所に避難）

「しつかりした屋根付きの裁判所に多くの家族が避難しました。千人を超える人がいるのにトイレは限られていて、とても長い間待たなければなりませんでした。ソーシャルディスタンス

を取ることもできませんでした」

### 支援物資が大きな希望

台風から3カ月が経過し、まだ水に浸かったままの地域もありますが、人々は避難所にとどまりながら、家や畑の片付けを少しずつ進めています。多くのものを失いましたが、幹線道路からまだ水面下にある家まで小さな竹の橋を架け、家と家も竹橋でつなげています。困難を乗り越えるために力を合わせ、できることから始めています。

しかし、台風の犠牲者を思い出すことができず、またコロナの影響で、正規の仕事を持たない人やファイリピン経済にも大きな損失があり、台風被災

中国・武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が全世界に広がってから、2021年春で1年以上が経ちました。国内外でようやくワクチン接種が始まりましたが、大流行が収まる見通しは、まだまだ立っていません。アジア

各国からは引き続きJAFSに、悲鳴に近い切実な訴えが続々と寄せられています。今回は、これまで本誌に掲載されたことがなかった国々に住む日本人からも便りが届きました。現地からの生の声をお伝えします。

# 捨てられた盲目の母

## 娘夫婦、ロックダウンで職失

●インド 2月3日

ビシャール・フリリップ・パランジ  
ヤペルグラム・セワ・サンガ(AFS  
Sナグプール)代表

グラム・セワ・サンガは、インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラム街で、貧しい人々を支援する活動を行っています。私たちが運営するチャイルドアカデミーで働くスタッフの1人が、近所の人を通じて1人の盲目の女性の状況を知りました。私は代表として彼女に直接会い、話を聞きました。

「私はシャンティバイといいます。盲目です。娘1人と一緒にスラム街の小さな小屋で暮らしています。娘は小さいとき、とても良い子でした。そして成長するにつれ、私の世話や家事など生活を支えてくれるようになっていきました。娘は結婚し、今は夫と一緒に3人で暮らすようになりました。しかし新型コロナウイルスにより、状況は一

変しました。盲目の私に親不孝をするようになりました。ロックダウンによって仕事を失った娘と夫は、私を養いたくない、夫婦2人で暮らしたいから、私に家から出て行ってほしいと言いました。娘は私に食べ物さえも与えてくれません。私は空腹を満たすため、近隣の人に食料を求めています。私は家で過ごすことは危険だと感じ、近所の人々の家で過ごしています。娘は私を見捨てました。私には生きる意欲がありません」

話を聞き、私は近隣の人々に、彼女を安全な家に留めて食べ物を提供してあげるよう求めました。今後団体として彼女を支援していくことを決めました。彼女は今の知らせを聞き、暗かった顔が明るくなり、人生に希望の光が差しました。グラム・セワ・サンガは現在、コロナ支援活動も行っています。今回ナグプールのシバジナガルスラム地区で、



家から追い出されて近所の家に身を寄せる盲目の女性(右から2人目)に食料を支援した=インド、マハラシュトラ州ナグプール市

2000世帯の人々にドライ食料キットを配りました。彼らは国の制度に登録されておらず配給カードを持っていません。彼らが栄養価の高い健康的な食事ができるよう、キットには、米、小麦粉、豆、食用油、砂糖、ポハ(お米を平たくして乾燥させたもの)、スージー(粗挽きの小麦)、コリアンダーパウダーをはじめとするスパイスが含まれています。衛生を確保するため、生理用ナプキン、再使用可能なマスク、入浴用石鹸、洗剤も配りました。

## コスモニケタン 学園が再開

●インド 3月8日

ナンディニー・クンパールBSV  
IA理事  
学校は1月1日から始まったのです

が、全学年ではなく6年生から10年生までだけです。先生は全員、毎日学校にきています。登校する生徒の数は日々増えています。2月から生徒のためスクールバスの運行も始めました。昨年授業がなかったため、政府はシラバスを40%削減と決めました。6年から9年の進級テストは6月からです。今年の夏休み(通常4月から6月中旬)はなしになり、学校は休みなく走り続けます。昨年入学した1年生は全く授業を受けていませんが、政府がシラバス40%削減を決めたので今年2年生になります。英国変異種の感染が拡大し、1〜5年生については政府がまだ再開を決めかねています。親も子どもを学校に行かせるのを怖がっています。州内のいくつかの学校では、教師が感染したため学校を2〜3日閉鎖しています。しかし私たちの学校では、神のご加護で生徒も先生たちも元気にしています。

## 工場勤めで濃厚接触 一家が隔離、収入絶たれた



妻が隔離施設に入り、夫のジャヤシリさん(中央)は娘(左)と息子と共に自宅隔離中=スリランカ、バドゥーラ市

●スリランカ 2月17日

ラビンドラ・カンダゲIIサルボダヤ  
(AFSスリランカ)

マバカダウエワ村は、私たちサルボダヤ・シャンティセナ・サンサダヤがJAFSの支援を受けて地域開発プロジェクトを実施している地域の一つで

## アジアの新型コロナ感染症 累計感染者数と累計死者数

	WHO(世界保健機関)など調べ	
	感染者数	死者数
<b>インド</b>		
5月5日時点	46,433	1,568
6月19日時点	381,091	12,604
9月15日時点	4,926,914	80,808
12月15日時点	9,906,507	143,746
3月16日時点	11,385,339	158,725
<b>インドネシア</b>		
5月5日時点	12,071	872
6月19日時点	42,762	2,339
9月15日時点	221,523	8,841
12月15日時点	623,309	18,956
3月16日時点	1,419,455	38,426
<b>カンボジア</b>		
5月5日時点	122	0
6月19日時点	129	0
9月15日時点	275	0
12月15日時点	362	0
3月16日時点	1,325	1
<b>シンガポール</b>		
5月5日時点	19,410	18
6月19日時点	41,473	26
9月15日時点	57,454	27
12月15日時点	58,325	29
3月16日時点	60,105	30
<b>タイ</b>		
5月5日時点	2,988	54
6月19日時点	3,141	58
9月15日時点	3,475	58
12月15日時点	4,246	60
3月16日時点	27,154	87
<b>ネパール</b>		
5月5日時点	82	0
6月19日時点	7,848	22
9月15日時点	55,329	360
12月15日時点	249,244	1,716
3月16日時点	275,231	3,014
<b>バングラデシュ</b>		
5月5日時点	10,143	182
6月19日時点	102,292	1,343
9月15日時点	339,332	4,759
12月15日時点	492,332	7,089
3月16日時点	557,395	8,545
<b>フィリピン</b>		
5月5日時点	9,684	637
6月19日時点	27,799	1,116
9月15日時点	265,888	4,630
12月15日時点	450,733	8,757
3月16日時点	621,498	12,829
<b>マレーシア</b>		
5月5日時点	6,383	106
6月19日時点	8,529	121
9月15日時点	9,946	128
12月15日時点	84,846	419
3月16日時点	323,763	1,210



# 市中感染者ゼロ、マスクなし



ベトナム政府のポスター＝フエ市

## 国民に高い集団力と危機意識

●ベトナム 1月22日

桂良太郎 日越大学客員教授

ベトナムは今、市中感染者ゼロ。私が住んでいる中部の歴史都市フエでも今、スパーなどの公共施設を除いては、ほとんどマスクをしていない状況である。ベトナム保健省の2021年1月11日から17日までの発表によると、1月17日の時点では、国内の感染者数は、1537人、死者数は35人。感染者の89・8%にあたる1380人が回復済みで、市中感染者は47日間連続ゼロとなっている。

世界的に新型コロナウイルスが感染拡大し始めた2020年2月初旬、ベトナム外務省は、過去14日以内に中国に滞在または渡航歴のある外国人の入国を一時的に認めないと発表した。3月31日には、「首相指示第16号」を發出し、全国規模の社会隔離を実施した。この首相指示では、全ての国民に自宅待機を呼びかけ、食料や薬品の調達、必需サービスを生産・提供する企業・工場で働く場合など、本場に必要の場合に限って外出するように求めた。交通運輸省、各省市の人民委員会は、原則として公共交通手段による旅客運搬も停止した。

こうした措置が奏功し、4月17日以降は新規感染者数ゼロが続いた。制限措置の緩和に伴い、5月中旬と7月下旬に一時的に感染者数が増加したものの、新規感染者数の平均は1日6人とどまり、現在では市中感染ゼロが30日以上続いている。2020年の国内総生産（GDP）成長率も前年比2・91%とプラス成長を達成した。ベトナムでは何が奏功したのであろうか。

私は、このコロナ禍の中で、ベトナム人のもつ底力というものを強く感じることができたように思う。個人の意思よりも家族を尊重する家族観がベトナムにあり、危機管理能力が高いという驚きを隠せない。「家族、地域といった集団の力で防疫を進め、社会を守ろうとしている。『サステナビリティ（持続可能性）』への転換が求められるなか、技術的なイノベーションだけに偏らず、人間の「集団力」を生かす社会づくりの重要性を、このコロナ禍に対する取り組みから学ぶことができた。

そうした集団力について、私は、ベトナム戦争を経験した国民は、平和、命の尊さを知っており、政府や公的機関からの指示を信頼し、受け止めて行動するという常に危機意識と行動できる風土もあり、それに勤勉な国民性とともに、政府の優秀な人材がリーダーシップを発揮したことが功を奏したのではないかと考えている。ベトナムで

初、各地域で警察や軍隊による検問・監視が続ぎ緊張した。違反者には罰金や逮捕などの罰則もある。州境にあるキヤメロンハイランドの医療は州を越えたイポーに依存しているため、日々冷や冷やしながら過ごした。

店やレストランに入る際、検温、消毒と接触者追跡アプリでバーコードを読み取ることを義務づけられ、常にどこでも追跡される。あまり気持ちよくなく感じられたが、今ではすっかり新しい生活様式として定着している。

私には6歳になる娘がいるので、3カ月間一歩も家から出ることができなかった。学校の授業はオンラインへと切り替わった。6歳では1人で授業参加は難しく、親はつきっきりの状態。決して安定しているとは言えない電波状況の中、娘はタブレットに映る同級生とともに必死で英語の学習をしていた。授業後は室内で運動や作業をして過ごしたが、母と子1対1ではできないことも限られてストレスもたまっていた。娘はやはり外に出て友達と遊びたいようだった。

キヤメロンハイランドにはスーパーがない。日用品を手に入れるのが難しく、知り合いのレストランの人から鶏肉を買ったり、近所の農家から野菜を分けてもらったりした。厳しい移動制限は経済に大きな影響を落とし、失業者は増え、治安悪化の懸念も高まっている。

マレーシアにはバンングラデシユヤネパールからの外国人労働者（違法労働含む）も多くいる。その生活環境の悪さから感染クラスタの原因になったりと、社会の闇の部分の問題をさらに悪化させている。今回のコロナにより、首都圏の工場を中心に行政のメスが入ったとのニュースを聞くが、彼らの生活が改善されるのか企業がつぶれるのか、どっちが先かはわからない。

## 規制下で次々と新事業

### 外国人労働の「闇」も顕在化

●マレーシア 2月8日

木下 里奈 元JAFS海外ボランティア研修生

私は現在マレーシアのペラ州にあるイポーで娘と2人で暮らしている。夫は高原地帯パハン州キヤメロンハイランドで日本野菜や果物を生産販売している。現在、再び感染者が増え、いったん解除されたMCO（movement control order）と言われる移動制限が再発令、全マレーシアで州の移動禁止などの制限が敷かれている。夫とは自由に会えない状態で、健康第一を心に刻み日々生活している。

2020年、マレーシアでも新型コロナ

ことも最後に記しておきたい。

ロナの感染が広がり、社会が大きく変化した。3月17日にMCOが敷かれ、約3カ月続いた。基本生活に関わる職種以外は営業許可が出ず、レストランは持ち帰りのみ、ほとんどの店舗は閉まり、街は静まりかえった。MCO中の行動基準は、

- ・ 外出許可は家族で1人
  - ・ マスク着用（しなれば罰金1000RM＝日本円で約2万5千円）
  - ・ 買い出しなどの限定された理由
  - ・ 移動は10<sup>キ</sup>以内（州を越える移動は禁止）
  - ・ 教育はオンライン授業
  - ・ 外でのスポーツは全面禁止
- いわゆるロックダウンである。当

## コロナ募金を続けています

JAFS事務局 電話：06-6444-0587  
E-Mail: [info@jafs.or.jp](mailto:info@jafs.or.jp)

本会が呼びかけたコロナ募金に多くの皆さまからご支援いただき、昨年5月より2月末までに1千62万4818円が集まりました。御礼申し上げます。アジアからの留学生への支援と、海外7カ国での食料や衛生用品配

布／教育支援／医療機関の運営支援／休業・失業者への保障などに使わせていただきました。本誌次号で詳しい報告をさせていただきます。今後も支援を続けてまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。

# 村のリーダーたち 農業研修でやる気



動画教材により松川一人講師の説明を理解する農業研修参加者  
|| ネパール、シンドウパルチョーク郡インドラワティ村

## ネパール水事業、3年次始まる

ネパール、シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10区(旧ボテシパ村)で進めている日本NGO連帯無償資金協力事業の2年次が3月24日に終了しました。2年次は、1年次に建設した揚水システムのくみ上げタンクから、各地域へ送水するための貯水タンクを村の東側に建設することが目標でした。2年次早々、新型コロナウイルスによるロックダウンで建設が遅れていましたが、その後の村人たちの懸命な働きにより、計画通り飲用貯水タンク7基、農業用貯水タンク15基を完成することができました。

私は昨年12月、タンクの建設状況を確認するために初めて現場を訪ねました。そこで、現地の人々が自分たちの手で一からタンクを造る姿を間近に目にして衝撃を受けました。そして、タンクの設置がゴールではなく、彼らが一生懸命造り上げたこの水システムを今後自分たちで使い続けることができるように、しっかりと研修を行い受け渡す必要性を強く感じました。

本事業では、揚水システムの設置による農業用水確保と併せ、生産量向上を目指した農業研修も行っています。各集落から選抜されたリーダーへの農業研修もコロナのため開催できずに行うことができませんでした。

1回目の研修は2日間にわたり、1日目は現地農業専門家による苗作り、

オフシーズンの野菜の育て方、疾病対策について講義と実践研修を、2日目は、1年次から農業講師としてご協力いただいている松川一人氏の里山紹介動画を通して、家畜を使用した循環型農業の在り方と有機農業の有用性を説き、村が目指すべき環境作りについて意識付けを行いました。まだまだ寒い中、屋外で行う研修でしたが、文句ひとつ言わず、講義内容を真剣にメモする姿や、動画を前のめりに聞く姿がすごく印象的でした。

研修後、学んだ苗作りを実践してもらうために唐辛子の種の配付希望者を募りました。これまでの種や苗の配付時には、全員が希望するわけではありませんでしたが、今回は参加者全員が「すぐに欲しい」と希望し、学びを自分のものにしようとする姿勢を見て研修効果を実感できました。最初に村に行った時、現地には昔から続く農法や生活があり、私たちの行う研修は意味があるのか、本当に求められているのかと不安に思うことがありましたが、このように研修により前向きになったリーダーたちを見て、私自身も前向きな力をもらうことができました。

3月25日、本事業も最終年次となる3年次を迎えました。スタッフ一同、村全体に水と笑顔が行きわたる日を目指して、引き続きがんばります。

(JAFSネパール駐在員 中島彩華)

# アジアに贈った未来への希望



## サイクル・エイド新ステージへ

「放置自転車を再生して世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に、大阪府内の市町村が回収した放置自転車を修理・再生してアジア各国に贈るサイクル・エイド事業。社会環境の変化により、2020年度で終えることになりました。1997年に始めてから、これまでに10カ国に計3万2670台を贈ってきました。多くの皆さまが寄せてくださったご厚意・ご支援に、改めて感謝申し上げます。

日本では引き取り手がない自転車が大きな問題となっていますが、世界には学校の数が足りないため長時間歩いて通うか、遠すぎて通学できない子どもたちが多くいます。こうした子どもの教育環境の向上に寄与しようとしたのが本事業です。自転車のリユース・リデュース・リサイクルによって国際交流のきずなを深め、地球環境に優しい社会づくりを目指しました。

贈られた自転車は、各国の子どもたちをはじめ、助産婦やケースワーカー、自警団などに幅広く使われてきました。学校や町・村で大切に管理され、より多くの人が安全に利用できるよう工夫されています。寄贈先では安全講習や環境教育・国際交流プログラムも実施し、地域住民の意識向上を目指してきました。

2020年度はコロナ禍によってさまざまな活動が制限されましたが、520台をカンボジ

日、カンボジア、クラチエ州チエターポレイ郡

アに寄贈することができました。学校も1月に再開し、要請のあった村々の子どもたちに自転車を届けることができました。

事業を始めた頃は50万台を超えていた大阪府の放置自転車も、駐輪所の整備などによって年々減ってきました。日本国内で大切に再利用されるようになってきました。一方、受入国のリサイクル品に関する税関の法律が変わり、日本から再生自転車を贈るのではなく、両国でより良い方法を模索するようになりました。

アジアの村々には、自転車を必要とする人々がまだまだたくさんいます。今後は、必要とする国の中で自転車を調達することも考える必要があります。本事業は、日本でも寄贈国でも、行政・NGO・民間企業・団体・学校・保護者・地元有力者らが連携し、一丸となって取り組んできました。

JAFSは、こうして築かれた協力者のネットワークをこれからも生かし、地域の環境保全や教育環境改善、国際交流の推進・人材育成に取り組んでまいります。地球に住む仲間として理解し、協力し合うボランティアネットワーク活動です。

地球の環境破壊による災害などで大きな被害を受けるのは、安全とはいえない地域や家に住む貧しい人々であり、負のサイクルから抜け出せないでいます。自転車寄贈によって生活が改善し、自立への一歩を踏み出した人々が地域の環境に目を向け、今度は協力者としてプロジェクトに関わり、課題解決に向けて動き始めていきます。(JAFSスタッフ 岡本佳子)

※この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

# カンボジアへの「贈水」継続へ

## イオン労連 16年間の交流、脈々と



2004年11月の第1回イオン労連ワーキングキャンプのときに掘った1基目の井戸（左）が、2021年1月現在も大切に使われている（右）＝カンボジア、タケオ州トラン郡



カンボジアの村に井戸をつくる「贈水の輪」活動をしているイオングループ労働組合連合会（イオン労連）が、JAFS、カンボジア現地提携団体KAFSと1月27日にオンラインで、カンボジアの支援地域の様子や現地イオン社員の活動状況、コロナ禍の現地での

取り組み可能な活動について話し合いました。その中でイオン労連は、組合員と今回の話し合いの情報を共有し、この活動に引き続き取り組みむことを明らかにしました。同労連は2004年から毎年カンボジアでワーキングキャンプをしていま

す。現在までに71グループ、1590名の組合員が、井戸を必要とする村を訪問し、村人とともに汗を流して123基の井戸掘りと9千本の植林をしました。1553世帯、7642名が恩恵を受けて生活が大きく改善し、とても喜ばれています。

カンボジアの新型コロナウイルス感染者は1月26日現在、460名、治癒者412名、死者0名と、世界中で感染拡大が抑えられている国の一つです。

KAFSからは、タケオ州の学校が1月11日より再開されていること、また人々の生活の中で衛生意識が高まることで安全な水の必要性が高まっており、新しい井戸建設に着手していることなどが報告されました。04年にイオン労連が寄贈した第1基井戸をはじめ、7基の井戸をKAFSが訪問調査し、今も大切に使われている状況が伝えられました。

農村の貧しい人々の多くは建築現場などの日雇いが重要な収入源でしたが、今はコロナ禍で仕事を失い、不安定な生活が続いています。マスクや消毒用アルコールなどの感染予防用品も不足し、経済的にも入手が難しく、感染症対策が心配されています。

現地への訪問はまだしばらくできない状況ですが、オンラインを通して支援者と現地がつながることができ、活動の確認や現状把握ができました。（JAFSスタッフ 岡本佳子）

### コロナ下でできること アジアの若者らが討論 AYS2021に向けて

アジアユースサミット（AYS）はアジア各国の高校生らが「持続可能な地域社会」を目指して議論する合宿形式の国際会議で、2年に1度、日本で開かれています。2021年は第7回の予定ですが、コロナの影響もあり、どのような形で開くかを検討中です。

この状況下で「コロナ禍の中でAYSでは今何ができるか」について議論しようとして、オンライン会議が1月24日に行われました。スリランカ、ネパール、カンボジア、インド、日本からユースリーダー6名が参加しました。

参加者が提案したのは「オンラインコンサート」と「バーチャルフェア」です。コンサートでは、外出を制限される中で、心を明るくする音楽を配信する取り組みを考え、メンタルヘルスケアも含め、コロナ禍の下で心身のリフレッシュを取り入れます。バーチャルフェアは、コロナ禍における自国の状況を分析し、プロジェクトを立案、共有していく方向で話し合いました。

皆が大変な状況だからこそ、国境を越えて連携を取り合い、アイデアを行動につなげていこうと、今後も定期的な意見交換をすることになりました。（JAFSスタッフ 坂口優）

### \*自己紹介をお願いします。

私はバン格拉デシユ出身で、先天性の全盲です。滋賀県立盲学校で理療科教員をしています。

バン格拉デシユ北東部ネットロコナ県の本ドウアカリ村に、8人兄弟の末っ子として生まれました。

町会議員だった叔父は、同じ村の盲人の兄弟から、視覚障害者でも点字で勉強ができる学校があることを聞き、父に知らせました。

私が家を出ることが寂しくて母は何度も泣きました。最終的に家から遠く離れたジャマルプル県の学校の寄宿舎に入っ

て勉強することになりました。寄宿舎はABC (Assistance for Blind Children) というNGOが運営していました。そこから学校へ通って晴眼者と一緒に学びました。

## 活躍する アジア人

### 日本で盲学校教員、母国を支援

バン格拉デシユでは「目が見えなければ何もできない」という考えが強く根付いています。多くの視覚障害者は、心が痛むような言葉で差別され、家族や社会の重荷として扱われます。私はこの状況を払拭し、目が見えなくても努力すればできる、社会に役立つ存在になりうる、ということを皆に

できる機会に恵まれました。あん摩・鍼・灸を学ぶ目的で1996年の3月に来日し、4月に高知県立盲学校に入りました。すばらしい先生方に恵まれ、そして学習手段が漢字を使用する墨字（点字）に対して、点字ではない文字のことではなくカタカナ書きの点字であった

ことで、専門用語の多い困難な学習をこなすことができました。



ビッショジト・ロイさん

(バン格拉デシユ)

示したかったのです。だから一生懸命勉強に励み、トップの成績で高校やカレッジへと進み、夢のダッカ大学にも入学できました。

### \*来日された経緯は？

ダッカ大学に入学して半年後、恩人との出会いと幸運に導かれ、国際視覚障害者援護協会の奨学金で日本に留学



「シヨプノ」のメンバーたちと。右から2人目がビッショジトさん

た。

教科書は全て点字で用意されており、思う存分勉強ができたのも大きかったです。あん摩・マッサージ指圧師、鍼師、灸師の国家試験を受験し、無事に合格することができました。

母国にこの技術を広めるための指導力を身に付けたいという思いで、筑波大学理療科教員養成施設に進みました。2002年に滋賀県立盲学校に理療科教員として赴任しました。

### \*日本に来て感じたこと・伝えたいことは？

母国の視覚障害者を支援したいという思いで、2005年にNPO法人「シヨプノ」（バン格拉デシユ視覚障害者支援協会）を設立しました。「シヨプノ」は母国語ベンガル語で「夢」という意味です。

バン格拉デシユのカレッジに在籍している視覚障害学生に毎年、奨学金を支援し、点字板や点字用紙を現地に送っています。将来は、視覚障害者が自立するための学校や、読書環境を整えるための点字図書館を建設する夢を抱いています。

日本では福祉が充実していることを肌で感じました。点字ブロックや音響式信号機、自動券売機などの点字の印、全てが視覚障害者にとって生活しやすいものです。多くの点訳・音訳ボランティアの存在も、世界に誇れるものだと思います。

## 12000ℓのタンクから集落に配水

30分圏内で水を得られていた以前の水源が、地震で枯渇してしまいました。そのため今回12,000ℓ容量の集水タンクと、そこから配水して集落の共同水場で水をくむことができる設備を作りました。完成により、遠くの水源まで長い道のりを歩く水くみ労働から、数年ぶりに女性や子どもたちは解放され、水くみ時間が短縮されました。以前はできなかったコロナ感染予防の手洗いもできるようになり、村人たちの健康維持にも大きな役割を担ってくれています。



第3州シンドウパルチヨーク郡インドラワティ村第2区 受益者:36名(6世帯)  
井戸形式:水道式

【寄贈者】株式会社国元商会 様

【寄贈者】富山県南砺市立福野小学校 様

## 復興した学校に水が戻った

第3州シンドウパルチヨーク郡インドラワティ村第2区ブラティバ小学校 受益者:60名  
井戸形式:水道式



標高1500mの山間地域。村の子どもたち48名が通う小学校の校舎は地震で倒壊しましたが、ようやく再建。しかし地震で水源が枯渇し、トイレも鍵が掛かったままの使用禁止状態が続いていました。学校で喉が渴いても飲める水がありません。その状況を改善するため4kmほど離れたところに水源を確保し、集落近くに2,000ℓ容量の集水タンクを作って、水源の水をタンクに貯水。その水を地域内に行き渡らせる水道パイプを埋設して、学校にも送水することができました。

【寄贈者】株式会社国元商会 様

## 植林の大切さを学んで環境保全

ご支援により、干ばつ時も心配せず水を得られる井戸が完成しました。村人たちの協力で井戸周りや道も整備され、水くみが容易になりました。また、今までは生活のために森の木々が伐採され、それが地域の乾燥を進め、水を得ることをさらに難しくしていましたが、水の大切さと共に植林の重要性についても村の人々と話し合い、小学校を中心に環境保全を開始。子どもたちは自分で植林した木々に水を与え、育てる楽しみから地域全体の環境へと意識も高まってきています。



アンパラーラ地区サラピタオヤ村 受益者:175名(30世帯)  
井戸形式:露天式(8m)

ご寄付には  
税の優遇措置が  
受けられます

## いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2021年4月現在)

インド=60万円      フィリピン=33万円  
カンボジア=28万円      スリランカ=22万円  
ネパール=17万円 (パイプライン=30~150万円)  
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会  
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会  
☎06・6444・0587 へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

# みなさんのおかげで 井戸ができた村

## 2つのルール決めて維持管理

【寄贈者】2020年夏季募金の寄付者 様

この村では、政府の設置した水くみ場から週2~3回しか水を得ることができず、1週間分の水を貯めておく必要がありました。水が出る時間も限られているため、列に並ばなければならないという深刻な問題がありました。しかし新しく井戸ができたことで、村人はいつでも水がくめるようになりました。村では①水は飲用と料理のために使用される、②村人たちが協力し合って井戸を維持管理する、という2つのルールを決め、井戸を長期にわたって使用できるようにしました。



マハラシュトラ州アムラワティ県フガオン村 受益者:500名(95世帯)  
井戸形式:ポンプ式(深さ54・9m)

【寄贈者】谷口ちえ子 様

## すべての村人が一緒にメンテナンス

マハラシュトラ州アムラワティ県コタラバヒラム村 受益者:550名(150世帯)  
井戸形式:ポンプ式(深さ107m)



この村に住む人々はアディヴァシ族が多く、仏教を信仰しています。アディヴァシ族は、インド各地で採餌者または定住者として暮らしている少数民族です。村人たちは、村から遠く離れた場所まで水くみに行っていました。新しくできた井戸を長く使用するため村では、①ウォーターポンプは1日2回始動する、②電気代は寄付で支払う、③飲料水のみを使用する、④メンテナンスは村人すべてが一緒に行く、という4つのルールの下で維持管理して大切に使っています。



カビアオ町サンフェルナンド・スール村シ  
ティオ サクラング集落第2ゾーン  
受益者：農民約50名  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約35m）



カビアオ町サンフェルナンド・ノーテ村  
受益者：16世帯80人  
井戸の形式：ポンプ式（深さ33m）



カビアオ町サンロケ村  
受益者：15世帯60人  
井戸の形式：ポンプ式井戸（深さ40m）



ガバルドン町バントウグ村  
受益者：約15世帯（約60名）  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約35m）



カビアオ町サンフェルナンド・スール村ギナンシ  
ティオ・サクラング集落／受益者：14世帯80人  
井戸の形式：ポンプ式（深さ40m）

カビアオ町ボゴングシカット村  
受益者：約100名／井戸の形式：ポンプ式（深さ約30m）



カビアオ町サンタ イネス小学校  
受益者：生徒・教職員約210名と周辺の村人  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約50m）

【寄贈者】京セラ労働組合様

学校と村で平等に／泥だらけから解放

フィリピン・ヌエバエシハ州の町や村に11基が寄贈されました。この地域では、水をくむのに6〜9 km離れた村まで歩いて行かなければなりません。雨期には泥だらけの田んぼの中の道を歩くのです。重い水を運ぶのは至難の業でした。集落は毎年、台風の時期に洪水に見舞われ、村へのアクセスが完全に断たれてしまいます。井戸をご寄贈いただき、長い距離を歩かなくても安全な水を得ることができるようになりました。

「井戸は学校の先生と村の代表者が水管理組合を作り、みんなが平等に、安心して使えるように管理します」（カビアオ町・イネス小学校）  
「集落のどれもが使える井戸として、近隣の農民約100名が毎日使わせていただいています」（カビアオ町ボゴングシカット村）  
「雨が降ると泥だらけになる長い道を往復して家族の水を運ぶという大変な重労働から解放されました」（カビアオ町サンフェルナンド・スール村シティオ・サクラング集落ギナン）  
「住む人々も少しずつ増えると思います」（カビアオ町シティオ サクラング集落第2ゾーン）  
「ミネラルウォーターを買う経済的負担から解放されたことが、何よりうれしい」（カビアオ町サンフェルナンド・ノーテ村）  
「子どもたちにも安心して水を飲ませることができそうです」（カビアオ町サンロケ村）  
「井戸の水量は十分あり、ポンプ式で女性や子どもでも簡単に水をくむことができるようになりました」（ガバルドン町バントウグ村）

「わざわざ流れる山からの水を長時間かけてタンクいっぱいにして、山道を長時間運ぶ作業から解放されました」（ガバルドン町カマレ村）  
「ハエン町は、長年、小口融資をしながら、各地区に井戸が供給できるよう努力してきましたが、貧困層の人たちには、融資は返せない金額であり、自らの手で井戸を設置することができませんでした」（ハエン町ダムプラン村）  
「井戸の近くに簡単なおかずやスナック、日用品等売る店を作り、買い物ついでに水くみもできるよう工夫したところ、混雑が分散し、村人たちは気持ちよく水をくむことができるようになりました」（サンタローサ町リウエイウエイ村）  
「子どもたちの衛生意識が改善されました。学校にも毎日通えるようになり、教育環境改善にもつながりました」（サンタローサ町ソレダット村）



ガバルドン町カマレ村／受益者：約20世帯（約100名）  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約40m）



ハエン町ダムプラン村  
受益者：約15世帯（約60名）  
井戸の形式：ポンプ式井戸（深さ約30m）



サンタローサ町リウエイウエイ村  
受益者：約25世帯（約125名）  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約30m）



サンタローサ町ソレダット村  
受益者：約17世帯（約70名）  
井戸の形式：ポンプ式（深さ約27m）



2月27日開催のアジア市民大学第9回「ベトナム」は、初めてのオンライン開催となりました。講師は、現在ベトナム中部のフエ在住で、日越大学・フエ大学客員教授の桂良太郎さん。当初は一時帰国の折に講話いただく予定でしたが、コロナ禍による再三の

## コロナ下でも…初のオンライン市民大学

渡航制限のため帰国がかなわなかったためです。当日は11名が各自オンライン受講しましたが、自宅のネット環境などの事情により8名は当会会議室に集まって受講しました。写真。遠いベトナムからの講義とは思えぬほど映像・音声ともクリアで、講師との質疑応答も問題なく行うことができました。

今回のテーマは「ベトナムから未来のアジアの福祉への創造から創造へー持続可能社会への提言ー」。そもそも本学の意図である「一味違うアジアの探求」は、アジア社会・文化の3つの特色である多様性、多層性（急激な社会変化）、多重性（格差社会）をさまざまなアジアの国や地域について探求することです。特に今回は、ベトナムの今と未来を読み解くことがアジアの未来を想像し創造することにもつながることを学びました。講話内容を要約すると次のようでした。

◇ 日本は高齢化社会と言われて久しいが、アジアは今、欧米の4倍以上のスピードで高齢化が進んでおり、2050年にはアジアは世界の高齢者の50%以上を抱える地域に変貌すると言われている。

しかしベトナムでは、社会福祉がそ



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先

## アジアの暮らしと文化 ちびっこ画伯が伝える

コミュニティプラザ百花堂は、例年1月から3月にかけて、鳥取県鳥取市・倉吉市・米子市の3カ所において、「アジアのちびっこ画伯たち コミュニティプラザ百花堂巡回展」を開催しております。写真。

今回もアジア協会アジア友の会様より、子どもたちの描いた絵画コンテストの優秀作品約50点をお借りし、開催することができました。アジア14カ国の子どもたちの素直なまなざしで描いた絵画は、カラフルでエネルギーが溢れる。国別に展示すると色使いの特徴などが見えてきます。作品一枚一枚からは、住んでいる村の風景や、文化・習慣なども詳しく知ることができ、来場者の目を惹きつけました。

また、未だ収束の見えないコロナ禍中での開催となり、自由に旅をすることもままならない昨今、やはり話題は同じアジアに住む人々のことになりました。

子どもたちの絵画を通し、アジアの仲間たちに一日も早く平和な日常が戻ることを、コロナに負けないで元気に過ごしてほしいと感じました。

（コミュニティプラザ米子百花堂 長谷川 嘉子）

◇ ※2月5日には展示の様子が日本海新聞に掲載され、来場者の方のみならず、多くの人に広く知っていただくことができました。

◇ 高齢化の波に追いついておらず、多くの格差（南北・都市と農村・多民族と少数民族・性差・所得間）のために進んでいない。特にベトナム戦争の結果、独身の高齢女性が男性の数倍いると言われており、貧しいがゆえに、社会福祉は社会制度ではなく家族の絆のような温かい人間力に支えられている社会だ。しかし、家族による介護には限界があり、社会を支える若年層の多くが外国へ出稼ぎに出ているという問題もある。今後、日本は経験を生かしながら、ベトナム人の国民性に合った福祉人材の育成を国際貢献として推進していくことを望まれており、その役割はとて大きい。

◇ 今回はコロナ禍により、急遽やむを得ずオンライン開催に変更しましたが、オンラインの長所も発見できました。従来の対面方式では参加されないような、日本で働くベトナム人やベトナム在住ベトナム人の受講もあり、オンライン開催により、幅広い層の受講が可能となりました。

◇ コロナ禍によりこの1年は多くの国内活動が中止や延期を余儀なくされましたが、今後はオンラインの活用を積極的に図っていきたいと思います。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

◇ ※今号の12・13に、桂さんのベトナム・レポートを掲載しています。

## NPOフェスで

### JAFSの活動紹介

2月16日から3月1日まで大阪市北区の阪急百貨店で開かれたNPOフェスティバル（H20サンタ主催）で、JAFSの活動が紹介されました。写真。今回は残念ながら展示のみとなりましたが、並行してチャリティオークションや、チャリティTシャツの販売などをしてくださり、アジアの井戸支援へご協力いただきました。次の機会にぜひ、のぞいてみてください。

（JAFSスタッフ 熱田典子）



## 環境・安保・格差…明日の地球論じよう

「今、地球は危ない」をテーマに、グローバル化した地球で起きている環境破壊など様々な問題について解決の糸口をともに考える学習会「グローバルコミュニティ・カレッジ」を、2020年10月から毎月第4金曜の夕方に開いています。JAFS村上事務局長はじめ会員有志が発題者となり、討論する形式で進めています。

◇ これまで取り上げた内容は、第1回「グローバル時代における連帯と地球運命共同体理念」（10月30日）、第2回「環境と開発の問題」（11月27日）、第3回「SDGsの課題」（12月25日）、第4回「人間の安全保障の問題」（3月26日）。共通するのは「人類益」「地球益」という大きな視点で未来を考えることです。

◇ 今後の開催予定は、第5回「格差と貧困問題」（4月23日）、第6回「生存と正義の問題」（5月28日）。いずれも「誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造」を基本理念とする当会にとって重要なテーマであり、自らが考え、ともに話し合うこととを考えています。ご参加をお待ちしています（参加費千円/回）。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

## 新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)

2020年12月1日〜2021年2月28日

●社員会員  
天野紀/西岡直樹/吉永賢太

●維持会員  
石黒大圓/鳥居洋一/北野拓郎

## 会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)

2020年12月1日〜2021年2月28日  
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、  
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

### 社員会費

伊藤誠/岩崎準一/大谷タカコ/岡田一/岡田光浩/加藤喜代子/齋藤公代/坂口久代/木本泰輔/高岸泰子/西岡直樹/端無勝/藪内資子/湯川剛/吉永賢太/渡邊喜久次/渡部高明

### 維持会費

家本英里/石井琢也/石黒大圓/石澤千恵子/石田美咲/伊藤勝/福垣三千穂/稲富美穂/井上登志子/岩田芳晴/上田昌/上田律子/植村ルリ/大野典子/大橋一雄/岡田長保/岡本修/尾上禮子/籠島慎二/印牧武人/河上晃浩/菊扇弘子/北田勝/楠井喜代治/熊代琢/久留須眞由美/古賀暢子/小林与子/坂本任司/櫻井曉美/猿橋靖/澤田靖子/塩尻加代子/竺原恵美子/實一穂/嶋元純夫/正法地由紀子/白神博子/末永雅典/杉野佳代/鈴木光子/須藤敏浩/瀬戸川清逸/仙野和子/袖山良一/高橋研造/高山恵理

●インド・H・V子どもと家族支援会費  
JAFSのちの会校方/苗村登美子

●インド・ルディア支援寄付  
佐藤高/根津千枝子/舟橋君子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費  
中西豊次

●チャイルドアカデミー指定寄付  
高瀬屋布団店/ドリアンプランニング/谷澤大介/根津千枝子

●ネパール・バイオガス寄付  
設楽宏幸

●ネパール・ピトゥリ支援会費  
大谷英一/大谷臣子/小川幸子/倉光和之/小松朱美/前田美津代/前田豊/宮本博幸/米本美津子

●ネパール指定寄付  
東代清隆/畑谷桃子/佐々木実

●ネパール学校建設支援寄付  
ネパールへのかけ橋/福永有花/横田美智子

●フィリピン障害者支援  
岡本朋子/ドリアンプランニング/中谷誠/村上公彦

●フィリピン指定  
西脇愛梨

●地球幸せ募金  
小代利子

●助成金  
○ネパール植林  
(公社) 国土緑化推進機構

●九州地方豪雨被害緊急支援

●里親会員  
三沢絵里子

●賛助会員  
出原恵子/荻原万紀子

子/田所英二郎/谷口ちえ子/谷阪洋子/谷畑正樹/谷山好恵/田村章子/田村康子/千田満佐子/鶴岡陽子/手嶋寛/寺西哲志/外山裕之/中嶋賢二/中島繁/中嶋多賀子/中島綾/永田文/中西豊次/中野為夫/桂子/永濱悟/成田うし/西岡万里/西川信一/仁科浩/野口博司/島山ひろみ/島山房子/林和子/福西礼子/藤木茂/藤本和富/古井紀行/古川武/前川匠/眞砂哲志/松岡利成/松田勝也/松原洋子/三林寿子/宮田奈美子/村上泰代/村田恭仁子/毛利仁智厚/森山尚子/山口幸子/山路英子/山田明子/横山昌三/吉田清史/吉田準・聖子/米田典子/和田征子

●賛助会費  
青木洋/赤石尚子/浅野直人/有井慶子/井坂勝則/出原恵子/井上松月/井上賢/今枝ゆかり/入江保夫/宇田和博/打越道夫/応地利明/太田愛子

●東日本大震災復興支援寄付  
小野寺知子/元橋亮治

●フィリピン台風被災者支援寄付  
明見勝好/熱田典子/有田稔/池田美奈子/石田誠子/石橋敏江/石原京子/伊藤エリサ/伊藤誠/伊奈徹/上野孝一/大澤淑/大須賀不出子/大橋克次/大平英明/さゆり/こはる/大山行雄/岡本朋子/岡本佳子/沖田哲男/荻野晃子/小原純子/香川泰子/柏原允子/加藤喜代子/加藤繁生/鎌田重明/川端勝/川村邦彦/川村忠/木下良子/木村依江/清原浩子/栗山拓久/留須眞由美/坂本任司/佐藤雅美/佐藤満昭/佐藤理香/新谷百代/杉本牧子/聖書友の会/聖霊奉侍布教修道女会/高島純子/高瀬稔彦/田中誠一/谷口倫子/谷口陽子/千田裕子/坪内廣次/戸田恭子/富松英二/仲上順子/中川咲子/中島和子/中島裕子/中谷誠/中西豊次/中野為夫/桂子/中山康夫/西原智珂子/根津千枝子/島山房子/林和子/廣澤悦子/福西礼子/藤田知子/藤原正昭/藤原増子/坊上信子/堀口賢司/松浦有理子/松野光伸/松本勝正/松山修道院/三里健一/溝口清子/溝渕むつ躬/宮野谷篤/宮本由貴/森田康代/矢賀繁之/八木健次/安里佳世子/八幡民子/山口かをる/横井文/吉田正二/吉用トモ子/余根田保/Ramon Vendrell Gali/脇家崇夫

●東日本大震災復興支援寄付  
小野寺知子/元橋亮治

●フィリピン台風被災者支援寄付  
明見勝好/熱田典子/有田稔/池田美奈子/石田誠子/石橋敏江/石原京子/伊藤エリサ/伊藤誠/伊奈徹/上野孝一/大澤淑/大須賀不出子/大橋克次/大平英明/さゆり/こはる/大山行雄/岡本朋子/岡本佳子/沖田哲男/荻野晃子/小原純子/香川泰子/柏原允子/加藤喜代子/加藤繁生/鎌田重明/川端勝/川村邦彦/川村忠/木下良子/木村依江/清原浩子/栗山拓久/留須眞由美/坂本任司/佐藤雅美/佐藤満昭/佐藤理香/新谷百代/杉本牧子/聖書友の会/聖霊奉侍布教修道女会/高島純子/高瀬稔彦/田中誠一/谷口倫子/谷口陽子/千田裕子/坪内廣次/戸田恭子/富松英二/仲上順子/中川咲子/中島和子/中島裕子/中谷誠/中西豊次/中野為夫/桂子/中山康夫/西原智珂子/根津千枝子/島山房子/林和子/廣澤悦子/福西礼子/藤田知子/藤原正昭/藤原増子/坊上信子/堀口賢司/松浦有理子/松野光伸/松本勝正/松山修道院/三里健一/溝口清子/溝渕むつ躬/宮野谷篤/宮本由貴/森田康代/矢賀繁之/八木健次/安里佳世子/八幡民子/山口かをる/横井文/吉田正二/吉用トモ子/余根田保/Ramon Vendrell Gali/脇家崇夫

●新型コロナウイルス緊急募金  
秋元千佳/アジアンチャリティフェスティバル実行委員会/苜屋インターナショナルスクール/阿部恩/網野典子/荒川正嗣/池田直樹/石橋敏江/石若達弥/小川富/小木曾房子/神戸友の会/輿水飛鳥/坂手悦子/坂本美津子/笹川忠士/更家充/下関教会/白

大仲紀子/大丹生あい子/大野篤一郎/岡村房子/荻原万紀子/小野英俊/貝柄徹/垣鍔祐介/勝原慶子/加藤昌彦/加藤美樹/鎌田公子/亀谷真佐美/川口勝三/川崎映子/川崎隆二/川端香織/河村徳次/川村幸正/河本朋子/北川健治/木下直美/木下マキ子/木元典子/小出幸代/小阪勝/小島学/小谷正登/後藤陽子/小林照子/小林陽子/昆文彦/世原由美子/左野菜穂子/澤智子/謝秀連/島田真知子/下久保恵子/白山礼子/鈴木禎子/瀬川健三/関川温子/高橋弘美/高橋幹雄/田口博國/竹内泰子/竹原庸起子/田中佐苗/田中通成/谷口倫子/田宮節子/日野西光尊/塚本善弘/月城文子/辻昌子/辻益廣/坪田秋成/鶴丸志よう子/出口豊子/友成陽子/鳥井章司/中尾則勇/中岡浩司/中島節子/中西貴子/中西佑介/中村恵美子/仁井恭子/西田京子/野村水香/箱崎健明/八田磨/羽田孝彦/浜下昌宏/東原輝明/久永諭/日高雪子/平岡由紀子/平野千晴/平林佳江子/深井正博/福岡誠之/藤木茂/藤原克彦/藤原幸美/別所衣子/榎ボックス/堀口節子/堀米弘子/牧和矢/松井和美/松本和子/マツラ明日菜/真鍋ミサ子/三里健一/水本裕子/溝口清子/南光子/森川佐和子/矢賀繁之/八木澄子/安井映似/柳本京子/山下玉英/山下良一/吉田廉/吉野基平/雲松寺/渡辺豊子

●法人会費  
(社福) 一粒福祉会/株式会社フイールド/学エール学園/堺南運輸商社(株)/株グロリアル/株国元商会/株グロリアップ/子どもの平和と生存のための児童館基金/仁愛会/NPO法人十勝・桜の山プロジェクト/パシフィ

●団体会費  
大成印刷(株)/日本を良くする会

●一般寄付  
青木洋介/熱田親憲/渥美加津美/伊奈徹/上野孝一/枝川豊/大久保洋子/チャリティショップPANAC/衆村壽子/齋藤公代/坂口久代/櫻井紘哉/ササキシゲル/篠原勝弘/ソフトバンクつながる募金/辻本嘉助/富松英二/ドリアンプランニング/ナモナキピリオネラ/PHP思いやり運動/藤原正昭/眞砂哲志/宮野谷篤/村上公彦/森本榮三/湯川剛/米田志文/脇家崇夫/トクメイハナコ/トクメイイチロウ

●物品・日用品・食料品等  
浦野美也子/川端香織/大同生命社会

●物品・日用品・食料品等  
浦野美也子/川端香織/大同生命社会



## アジアのこどもたちへ学用品を寄贈 武庫川女子大学附属中学校・高等学校

武庫川女子大学附属中学校・高等学校庶務委員会の委員長・西宮亜美さん、副委員長・吉田千夏さん、ステイブン・ウエツジ先生、石垣宗夫先生が2月19日来会され、アジアの子どものために生徒から集めた学用品を寄贈くださいました。  
イギリス出身のウエツジ先生が、クリスマスの本当の意味を生徒たちにお話しされたことがきっかけとなり、各クラス2名の庶務委員が、毎年クリスマス時期に合わせて学用品の寄贈協力を生徒に呼びかけています。アジアの子どもたちを取り巻く状況を学びながら、学園祭でも協力を呼びかけ活動を広げています。  
今回寄贈いただいた文具は、特にコロナ禍で経済的にさらなる苦境に陥っている子どもたちに届けさせていただきます。  
(JAFSスタッフ 岡本佳子)

## ホームページ 一新しました

JAFSのホームページを3月24日にリニューアルしました。アジア各国の人々を取り巻く状況や、当会の活動を、分かりやすく紹介しています。どうぞご覧ください。URL: <https://jafs.or.jp>



●(株)デュアルエデュケーション

教育関連事業を中心に国内とインドネシアで展開しております。インドネシアに進出したきっかけは、日本の子ども

日本とインドネシアの子どもへ教育・交流事業



もたちが気軽に交流できる場を作りたくと考え、学校建設を支援したことから始まりました。当時学校の先生方に十分な給与が支給できず、副業として働く場所を提供するため放課後校舎を利用し学習塾を開校させました。今ではさらなる雇用の創出と、質の高い子ども向け教育サービスを提供するため、試行錯誤を繰り返しています。

JAFS様とはアジアユースサミットを中心に、弊社塾生の日本の子どもたちの心の教育の一環として参加させていただいております。参加した子どもたちは自分の身の回りで起きている問題に気づき、行動することの重要性を学びます。さらに他国の問題をシェアしながら、国籍が異なる多様な若者たちと、友情の輪を世界に広げています。

千葉県船橋市上山町1-93-3  
0471-33819910  
代表者：端無勝

新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

●大阪友の会

「簡素な家庭」からの実践で「豊かな社会」へ



全国友の会は日本初の女性記者・羽仁もと子創刊の雑誌「婦人之友」の愛読者によって1930年に始められました。大阪友の会は大府内に約650名の会員がいます。「家庭は簡素に社会は豊かに」を願い、衣・食・住・家計、環境問題、子育て、高年の生活のことなど、年代を超えた交わりの中で学びあい、

活動をしています。私たちにできることから始めようと、CO<sub>2</sub>排出量削減を近畿部の15の友の会と取り組み、電気・ガス・水道・ガソリンをいすぎないこと、地産地消、プラスチックフリーなどを生活の中で実践しています。2006年度環境大臣賞を受賞。保温調理の鍋帽子や子どもたちとの大和川清掃

大阪市住吉区山之内  
4丁目6-19  
☎ 06-6691-0559  
代表：東野妙子

掃 || 写真 || など、SDGsの17項目を家庭から実践し社会へと広げたいことを願って働きかけたいです。私たちが目指すところと合致するJAFSの活動も会員として支援しています。

●環境コラム

●カルナータカ州の大自然

JAFSが設立したコスモニケタン学園があるインド・カルナータカ州。学園周辺のデカン高原の乾いた大地の様子は、アジアネットでも度々写真でご紹介しています。ですからカルナータカ州の自然環境というと私もそのイメージでしたが、先日「インド秘境の森 野生の楽園」というテレビ番組を見て、なんと熱帯雨林のジャングルがあり多種多様な動物が住むことを、恥ずかしながら初めて知り、皆さんにおすそ分けします。

州の大部分は乾いた大地ですが、面積の2割は樹々に覆われる森なのだそう。9カ月続く乾季には、森も乾き葉を落とす樹々も増え、動物も水や食べ物に困る大変な時季ですが、3カ月の雨季に降る多量の雨が草木を豊かにし、たくさんの果実も育んでいるようです。乾いた高原部も含めて「こんな動物もカルナータカ州にいるんだ」と驚きの連続でした。インド国内の動植物種の4分の1が食い食われながら生息し、固有種数はアマゾンに匹敵するほど、多様で特別なのだそうです。ベンガルトラ、象、クジャク、ナマケ熊、コブラ、サイチョウ、飛びトカゲ、カワウソ、ヒョウ、クロヒョウ…などなど。雨季には豪快に水しぶきを上げるダイナミックな滝もあります。

州の西端が面する海も、サンゴ礁があり生物が豊富。ほとんど調査されておらず、海中生物の実

態が明らかでないようですが、砂浜のコメツキガニが紹介されていました。干潮時だけ砂の中から出て砂を口に含み、餌となる小さな生物を口で濾し撮って、残りの砂を丸めて口から吐き出します。これを多数のカニが一斉にするので、砂浜に砂の小さなボールがどんどん増え広がる光景が印象的でした。満潮になると回転して砂に潜りながら入口に砂でドーム状の蓋をして、その穴に閉じ込めた空気ですの干潮まで生きるのだそうです。

人間の営みとは全くの別世界でつながりを持って生きる野生生物の姿に、人間は地球上のごく一部の存在なのだ改めて感じ、野生の世界を壊さないことの大切さを再認識しました。そしてインドの豊かな一面を見た気がしましたが、逆に人間の立場からすればインドは発展途上で豊かとは言えず、まだまだ開発されていないからこそ生物の楽園が残っています。調べると森の一部は国立公園として自然保護されつつ、サファリツアーも催されているようです。私がこの森の魅力と大切さを知ったのも人間が取材に入ったからこそであり、観光資源とすれば州の財政や暮らしが豊かにもなり得ますが、人間と護るべき自然との接点でバランスをとる難しさがここにもあります。いろいろ頭をめぐりましたが、インドの地力と底力を確かに感じました。(JAFSスタッフ 川本 裕子)

JAFS インスタグラム開設

InstagramでJAFSと検索いただくと「当会活動」や「アジア各国の文化」を知ることができます。これまでに、アジアのバレンタイン事情や、一日の生活について発信しました。フォローしていただくと随時情報が届きます。周囲の方々にも拡散していただくと幸いです。

編集後記

**マ** スクが手に入らなかつた頃手作りし50枚は縫った。その後少しでも息が楽なマスクを求め次々購入。1万5千円ほど使ったが多くは死蔵。大量のマスクに困り、年末に福祉施設に寄贈。マスク狂騒曲の顛末。(和)

**グ** ラハム・ハンコックの新著『人類前史』を読んでいます。「人類は1万2800年前に偉大な超古代文明ともいったん絶滅した」と。破天荒ですが、現場を徹底的に踏査した論考に、とても引きつけられます。(黒)

**オ** ンラインによる会議やセミナーを可能にしたZOOM運営会社の売上が前年比367%増。当会も海外ネットワーク会議やアジア市民大学などをオンラインで行い、仕事の進め方が大きく変わったこの1年でした。(裕)

**年** 末年始のネパール出張間にPCR5回受け、手続き多数、空港から出るのに4時間。今回は十数年ぶりに、国をまたぐ「海外」旅行であることをコロナのお陰(?)で実感した。自由な往来再開をそろそろ願う。(典)

**希** 望を持って、皆でコロナと戦いましょう。会員さんや支援者さんたちの支援が、アジアの人たちへの声が届いているか、支援を受けた人たちの声が届いているか、具体的な声が届くように頑張ります。(金)



▲夕暮れの浜辺で、AFSトマホンのごみ拾い活動に参加する子どもたち。古びたプラスチックごみが打ち上げられているのを見つけたラインドネシア、北スラウエシ州

◀表紙の写真 新型コロナウイルス下での台風襲来から3カ月が経っても水が引かず、浸水したままの家に行けるよう、竹で橋を架ける村人 2月19日、フィリピン、リサール州カルドナ町、4〜7ページに記事



## 募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で  
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2021年4月 145号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫、  
川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



HPもご覧ください